

グローバルに活躍する人材を!

● 母校は今!

今朝の読売新聞に母校の記事が次のように掲載されていました。

* * *

◆ 浦高生「海外で刺激受けた」 始業式で報告
OB 設立財団 渡航を支援

県立浦和高校(さいたま市浦和区)で1日、OBが設立した公益財団法人「同窓会奨学財団」の支援を受けて米・ミシガン大学のサマーセミナーに参加した生徒3人が、現地での体験報告をした。

「自分の意見を主張する海外の学生たちに接し、価値観が変わった」。7月6日から13日間、各国の高校生向けに開かれたセミナーに参加した3人が、同校体育館で行われた始業式で語った。セミナーでは、フランスや中国などから参加した生徒と一緒に同大教授らからゲーム理論や芸術などの講義を受けた。

1人当たりの渡航・滞在費37万円のうち、30万円を同財団が援助した。長安尚之さん(3年)は「財団の援助がなければ参加しなかったかもしれない。高いレベルの留学生と競い合え、刺激になった」と話した。

在校生の海外渡航などを支援する同財団は、昨年、川野幸夫・同窓会長(スーパー「ヤオコー」会長)ら同校OB約20人が設立。卒業生の宇宙飛行士・若田光一さんのように国際的に活躍する人材を育成するため、資金を活用する。これまでに集めた寄付金は2700万円で、目標額は7000万円という。

同校は財団の支援を活用し、毎年20~30人程度の海外短期留学を、今後5年間で約50人に増やす。また、海外の大学を受験するための受験料や渡航費などの援助も検討する。川野会長は「早い時期に海外を経験し、国際的な土俵で競える人材に成長してほしい」と話す。【読売新聞、地域版、9月5日】

* * *

早速、浦高のホームページを見てみると…

* * *

◆ 二学期始業式 【9月1日】

いよいよ二学期が始まりました。▼始業式では、杉山校長より「SGH」に関連し、若田光一さんの話とウィットギフト校などについての講話がありました。始業式の前には、全国大会の報告会、関東大会の壮行会、米国サマーセミナー研修報告会がありました。▼また、2学期から受け入れる留学生の紹介などもありました。2学期は、来週末に行われる文化祭や2年次の修学旅行、古河強歩大会などの行事もありますが、3年次はいよいよ自らの進路実現へと向けていく学期となります。▼生徒一人ひとりが、充実した2学期を送ってくれることを願います。



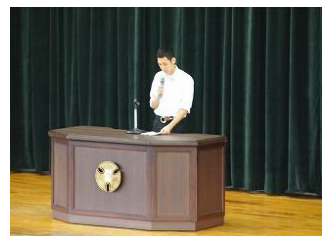
【校長挨拶】



【全国大会の報告会】



【関東大会の壮行会】



【サマーセミナー報告会】

* * *

◆ 若田さん宇宙飛行記念品返還式 【7月29日】

本校OBの若田光一さんが国際宇宙ステーション(ISS)での188日間にわたる任務を無事に遂行され、このたび帰国されました。宇宙に持って行っていただいた「浦高バッチ」の返還式が行われました。今回、宇宙を旅してきた「浦高バッチ」は、校章やスポーツバッチ・文化バッチ、各部のバッチなど、浦高生になじみのあるものばかりです。▼東京お茶の水のJAXA(宇宙航空研究開発機構)で行われた返還式では、若田さんは「浦高での学生生活は今でもよく思い出す。今回も同級生で母校の先生になっている奈良先生をはじめ、浦高の皆さんの励ましが力になった」と話されました。▼今回のミッションは若田さんにとって4目の宇宙飛行。188日の宇宙滞在だけでなく、66日間国際宇宙ステーション(ISS)の船長を日本人としてはじめて務められました。▼「相手を思いやる。調和の中でベストをつくす。そうした日本人の「和」の心を世界の中で発揮したい」と言われ、見事にミッションを完遂されました。▼そんな若田さんの仕事ぶりに対して、着陸時に後任の船長になられたスワンソン船長は、「勤勉でエネルギーに、ISSを最大限よくしようとする情熱を見ることができて、大変光栄だった」と讃えました。まさに浦高魂が発揮されているように思います。▼近い将来、若田先輩から浦高生に直接語りかけてもらう日が来ることを楽しみにしています。若田さん、本当にお疲れ様でした。



【若田さんと杉山校長】



【浦高バッチ】